

令和8年 第2回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和8年2月9日(金) 午後2時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者 櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後2時00分
- 6 令和8年第1回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。
林委員、片倉委員 署名。
- 7 教育長報告
 - (1) 一般事務報告 なし
 - (2) 専決事務報告
報告第1号 大河原町学力向上指導のための任期付き教職員の採用等に関する条例の一部改正について
教育総務課長より説明。
- 8 議 事 (非公開)
議案第3号 県費負担教職員の異動等の内申について
鈴木教育長より説明。
鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第4号 大河原町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画(案)について
小野寺専門監より説明。
鈴木教育長 | 給特法の改正に合わせて、業務管理計画についても年度内に作成して、新年度には実施できるようにというもの。これとあわせて、前回の定例教育委員

	<p>会にてご提案した、保護者対応のガイドラインとともに、2月20日に開催予定の総合教育会議にて議題にあげたいと考えている。</p> <p>現在は、働き方改革などが叫ばれているが、本当に先生方が働きがいのある仕事としてできるかが今後かかってくるのではないかな。</p>
一 盃 森 委 員	<p>業務の見直しについて質問したい。この前の研修会でも話題になったが、大河原町立学校の教職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画（案）の2ページの学校以外が担うべき業務の②について、特に中学校など生徒指導の対応として、勤務時間外に対応しなければならないことが実際に出てくるのではないかな。ここに記載してある学校警察連絡協議会にて認識を共有していくとあるが、この学校警察連絡協議会は、どのくらいの頻度で行われているものなのかな。</p>
小野寺専門監	<p>基本的には年間2回の開催としているもの。</p>
一 盃 森 委 員	<p>前にもこういう議論があったと思うが、やはり関係機関と連携を取っていくためには、お互いの分担についてなどの話し合いを進めて、関係性をどういうふうに築いていくのかを併せて進めていかなければ実効的なものになっていかないのではないかな。そこのところをぜひとも学校と地域が並行して取り組んでいく必要があるのではないかな。</p>
小野寺専門監	<p>一盃森委員のおっしゃるとおり、やはり学校だけではなかなか持ちきれないところがある。今後きちんと関係機関と情報共有を行い、お互いの役割分担などの共通認識を持った上で、動いていかないといけない。</p>
片 倉 委 員	<p>3ページ、⑰学校行事の準備・運営についてお聞きしたい。これは徐々に保護者の委員の役割を減らすということなのかな。</p>
小野寺専門監	<p>そこのところについては今後検討していくことになると思う。確かに片倉委員のおっしゃるとおり、特に小学校はPTA役員の皆さまのご協力があってこそ学校行事が成り立っている部分があるため、その辺りの役割分担をどのようにしていくのか、今後学校運営協議会等で協議を進めるほか、PTAとの話し合い等、今後検討していくことになると思う。</p>
丹 羽 委 員	<p>保護者の皆さまには是非とも協力していただきたい。委託ではなく、積極的にお父さんお母さんが協力してくれたら、コミュニケーションもとれるし子供たちも喜ぶ。そういう方向で上手く保護者が参加してくれるようにしたほうが良い。外部委託だとお金もかかってしまう。</p>
林 委 員	<p>多分これからの若い世代の先生方は、このような働き方が当たり前になっていくと思う。むしろ難しいのは、ある程度教職に長く就いてきたベテランの先生方で、今まで子供たちの教育に一生懸命取り組んできている。そこのところをもう一度見直して削ぎ落とすところと、やはり絶対大事だということを見極めて、自分のタイムマネジメントをするということが一番実現でき</p>

るかどうかのカギになってくると思う。個々の先生方に寄り添えるのは、やはり管理職の先生方だと思うので、意識改革がすごく重要になってくると思う。

このような計画は何のために作っているのか、子供たちの前に笑顔で立てるように先生方の健康が大事なんだよ、そして、先生方の家族も幸せにしないと絶対に子供たちの前に立てないんだよ、ということを打ち出した上で、その先生方が自分のタイムマネジメントをできるようにしていくことが大事なのだと思う。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第5号 昆虫標本維持管理会計年度任用職員の任命について

生涯学習課長より説明。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

9 その他

(1) 教育長報告

1 人を幸せにしたい(桂 宮治)

『笑点』でお馴染みの落語家の桂宮治氏は、小さい頃は人と一緒にいるのが苦手で、保育園や学校も嫌々ながら通っていた。理由は、家族と一緒にいたかったというのもあるが、周りの人たちに気を遣いすぎて、友達が今何を思っているのか、自分のことをどう思っているのかと色々と考えているうちに疲れてしまうからであった。

高校卒業後にたまたま紹介された化粧品の実演販売の仕事が自分に合っていて、順調にお金を稼げるようになった。その後たまたま見た動画サイトで桂枝雀師匠の落語を見て衝撃を受け、人に楽しんでもらえる、喜んでもらえるような仕事に就きたいと考え、落語の世界に飛び込んだ。桂伸治師匠に弟子入りして、落語家として活躍し続けている今、モットーにしているのは、「お客様全員の目を見るようにしている。落語を通して、お客様好きですよという気持ちを伝えるようにしている。」で、これは学校の教師も同じようなところがあるのではないかと。また、「先生方も子供たちも、常に周りにいる人に優しくしているのが一番。周りにいる人に嫌なことをしないこと。それだけで人は幸せに生きられる」と述べており、これも大空小の元校長の木村泰子氏と同じモットーではないかと。

2 全員参加の授業づくり

(1) 6年 国語『桃花片』の授業回想

(2) 算数の授業改革ポイント(田中博史)

(3) 国語の授業改善ポイント (桂 ^{さとし} 聖)

全員参加の授業づくりというのが、今回の校長会で本当に伝えたいところである。特に国語の授業では、分かる子だけが意見を言える授業というのが本当に多い。他の子は黙って暗い顔をしている。本当にこれで読解力がつくのか、国語が楽しいと思えるのかと疑問に思う。若い先生はなかなか難しい。少しベテランの先生になると、わからない子にもあてたり、意見を聞くことができるが、若い先生は自分が望んでいる答えが早くでないかと焦ってしまう。今から 38 年前、私が 31 歳のときの国語の物語文「桃花片」の授業について、南光台東小学校での記録であるが、研究授業において、わかる子だけの意見を繋ぐ授業が多く、当時の校長先生より、「全員発言」の授業をしてはどうかという提案を受けた。この「全員発言」をめあてに授業を行うと、「断然いい授業」と感じるのである。子ども達が生き生きとしているな、いい授業をしているなという思い出がある。

そのような思いをしていたところ。筑波大付属小学校の田中先生と桂先生の共著『算数・国語の「全員参加」の授業づくり』という本に出会った。全員参加という言葉に惹かれて、どんなことが書いてあるのだろうと読んでみると、全員参加という言葉は全員発言ではない。それは当然だと思うが、本当に大切なのは、「全員が学びに向かう心」の育て方で、学力の定着はその向こうにあると書かれてあり、それぞれポイントを挙げているもの。

3 算数科の授業

(1) 子ども同士がつながっていける学級づくり (重松優子)

(2) 広げよう、発展させようとする子どもを育てる (森本隆史)

(3) 全国学力学習状況調査で「数える」ことに関わる問題を出题する意図

(直海知子)

大きな3点目は、算数科の授業で、(1) 子ども同士がつながっていける学級づくりで重松優子先生がおっしゃることは、算数が苦手な子にとって、算数の得意な子の話を聞くだけの授業がどれだけ苦痛か、苦手な子も授業で動きたいと思っていることに気付いたもの。確かにそうである。わからない子、苦手な子にどのようにして授業に参加させるか一番重要である。先生が気づいて、自由に話していいと友達と自由に話していいということに気づき、やらせてみると子供たちが変わっていったもの。算数を一緒に解決できる仲間、何でも話し合える仲間になる。空間的な人間関係づくりが備わっていき素晴らしいなど思う。こうなっていくといじめや不登校の問題も無くなっていくのではないかな。

(2) は筑波大付属小の森本先生の著書で、算数でいうと発展、広めるという意味であるが、個別学習のなかで、発展的な学びというのはこのようにするのだと例を挙げているもの。

(3) は、文科省の調査官が、全国学力・学習状況調査について説明しているもの。

「数える」に関わる問題について、何々を1とする、正方形を1とするなど見方、考え

方であり、つまりそれは統合した見方である。(2)が発展、(3)が統合というような観点から書かれている論説であると思う。

4 「学びのたより」子ども目線に立ったときみえるもの（石井順治）

大きな4点目は石井順治先生の「学びのたより」から、子ども目線に立ったときみえるもので、金子みすゞの「犬」という詩の子供達の「読み」に対する石井先生の「読み」、石井先生の子供目線での感じ取りは本当にすごいと思う。解釈というかここまで出来るんだという石井先生のすごさがわかる論説だと思う。

5 講演会記録『対話的学びをつくる～文学の授業を中心に～』（石井順治）

大きな5点目が、別紙でお渡ししました石井先生の講演会記録で。冬休みの間に写真や図を取り入れて、鮮明になるように作成したもの。改めて作ると石井先生はこんなこともおっしゃっていたとか気付くことがたくさんあったもの。講演会に出席された先生方にも、文字化したものを是非読んでいただきたい。

金ヶ瀬小学校の半澤校長先生からの嬉しい報告で、前回の定例教育委員会のなかで提案した「コの字型机配置」「四人グループ」について、早速研究主任が職員会議で取り入れましょうと提案したとのこと。大変嬉しかった。また、数日前に大河原南小学校の成田校長先生より、職員会議で話したら、若手の先生やベテランの先生が真っ先にしてくれたとのこと。非常に嬉しく思うとともに、今後どのように展開していくのか楽しみである。

6 国語科における学習指導要領実施状況調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実（大塚 健太郎）

6点目は、国語科における学習支援事業実施状況調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実についてで、この調査は学習指導要領の次期改定に向けて抽出で毎年実施している。誰が答えるかはわからないが、学習指導要領の達成度をみるもの。

7 「生涯にわたって能動的に学び続ける力」を養う教科教育への挑戦（加個希支男）

7点目は、「生涯にわたって能動的に学び続ける力」を養う教科教育への挑戦ということで、文科省の加固教科調査官が書いたもの。加固教科調査官は、元々東京学芸大学付属小学校の先生であり、算数の教科調査官であるので、算数の事例による説明が多い。「統合的」「発展的」に考えることを「数学的な考え方」と言い、「学び方」とも言っている。先程の筑波大付属小の森本先生の、箱を使った問題を広げるというのが、まさに発展の授業であり、加固先生が言っている個別学習というのは、このように発展しているのである。そのため先生がきちんと教えないと、きちんと見方考え方を獲得していないとなかなか広げたり発展したりは難しいものである。

8 大河原町児童生徒の体格、体力・運動能力について

8 点目は、大河原町児童生徒の体格、体力・運動能力についてで、体格については、身長も体重も小学5年男子と中学2年女子が宮城県平均を上回っている。なお、小学5年女子と中学2年男子は身長、体重ともに全国値を下回っているが、反対に運動能力は高いもの。

肥満傾向割合については、中学2年男子を除いて、小学5年男女、中学2年女子が県平均より高くなっている。

9 『桃太郎電鉄 教育版』

(1) 出発進行！『桃太郎電鉄 教育版』（長尾康子）

(2) 『桃太郎電鉄 教育版』使用状況

9 点目は『桃太郎電鉄 教育版』で、令和5年町議会12月会議で佐藤暁史議員から「桃鉄 教育版」の活用についての質問があり、学校の判断で使わせても良いと答弁をしてから3年目となった。現在の町内各学校の使用状況について担当に調査してもらったところ、使っていたのは大中小だけであったが、特別支援学級で使用され成果が出ているとのことであった。全国で1万2300校ほどの学校で導入しており、特に地理的な知識の習得に有効なようである。

10 モンスター・ペアレント論を超えて（小野田正利）

(1) 対応困難な保護者対応は「学校以外が担うべき業務」に分類

(2) 「やめてください」と声に出せ！～教師の尊厳を守るために①

(3) 「それを強要されますか」と注意を促す～教師の尊厳を守るために②

10 点目は、小野田正利先生のモンスター・ペアレント論を超えての記事で、(1) 対応困難な保護者対応については、学校以外が担う業務に分類され、教育委員会や首庁部局が全面に出る必要があると説いている。これは体制が組めるかがポイントとなる。

(2) 保護者からの人格攻撃、強要、誹謗中傷があった場合は、教師自身の尊厳を守るために、「やめてください」、「警察に相談する」という言葉をはっきり言うことが重要。

(3) 長時間の交渉、威圧的で暴力的な言動、利得を求めるなど執拗な場合については、普通の対等の話し合いの関係をどう作るのかを目指して、学校や教師が矜持（自負心）を持つべきと小野田先生はおっしゃっている。

11 その他

(1) 大河原小 自主公開研究会〔算数〕

(2) 都道府県対抗女子駅伝（大中：菅原羽叶）

(3) OH！かわら楽校⑧「スイーツをつくろう」

(4) 第14回「明日青のつどい2025」

(5) 大河原中 第63回立志式

(6) 大河原中学校で立志式 (tbc 東北放送)

各種事業、研修会、会議、授業の様子等について資料により説明。

丹羽委員 先日、大河原小学校の公開研修会で、1年生の若い女性の先生がとても良かった。算数の授業であったが、授業前に子供達とコミュニケーションをとって、子供の突拍子もない質問にも合わせて答えてあげていた。

もうひとつは、落語家の桂宮治さんの話で、落語では、「100の力を必ず出し、絶対に手を抜かない」、「お客様全員の目を見るようにしている」とあるが、全員の目を見るなんて無理なのではないかと思う。禅の言葉に、一期一会というのがあるが、それを実際されているのだと思うが、僧侶の仕事はシビアで葬式や通夜が毎日のようにある。良い法要、良いお通夜ができるときは自分の力が抜けているときで、がんばるぞという時ではない。やはり自分に余裕がないと良い法要や良いお通夜はできないものである。

林委員 大河原町内の小中学生の体格と運動能力について、一つずつ照らし合わせて私も見てみたが、肥満傾向割合が高いのだけれども、体力運動能力が高いという、小学校5年生と中学校2年生の女子について、たくましくて素晴らしいと思った。学力も向上しており、やはり知と体がとても良くなってきているということにすごく喜びを感じたもの。

一方で肥満ということになると、どうしても生活習慣病の心配が出てくる。各学校で指導はされているとは思いますが、だからこそ体力があるというふうな結果が出るのだろうとは思いますが、そのところは大きいに推奨していただき、一部の病気などの心配がある肥満については、やはり保護者にしっかりと伝えることで、その子の将来を良いものにしてあげて欲しいと思う。

鈴木教育長 体力・運動能力調査については去年と同じ傾向となっている。小5の男子だけ落ちているが、その後上がっている。来年、再来年くらいには小5の男子も上がってきてくれればと思う。

一盃森委員 いつも石井順治先生の学びのたよりが一番気になって初めに読んでいる。大小の公開授業の際の1年の授業だが、授業もそうだが授業に至る前の学級づくりだとか、授業以外の場面で、石井順治先生がどのようにしてクラスの子供達を育てたかとか、先生と子供達との関係づくりをすすめていったのかを是非とも伺ってみたい。

そういうことが前提にないと、なかなか授業のことだけで算数だったらこうだよね、国語の問題はこうだよねとはならない、なぜなら生活だからですよね。学校生活は授業ではない場面のほうが私たちの記憶に深く刻まれる部分が多い。授業の中でも、本筋ではない横に外れたところで、先生がこう言っ

たとか、そんなことがあったよね、とか深く記憶に残っていることがある。単に豊かな人間性を育むというときには、こういった部分が大変重要な部分なのだった。

今回の資料を読ませていただいて自分はどうだったのかと振り返ると、前にも言ったかもしれないが、小学校からスタートして、学級担任をやって最初3年生からですから、5時間毎日授業があるとしたら、5時間分の教材研究をして子供の前に立たないと、子供に対して失礼だと思った。そこがスタートだったので、1人1人の子供を大事にするという意識よりも、今日も元気で学校に来てくれてありがとうから始まっている。そういった学校に来てくれた子供たちに、よりよくわかってもらいたいことを伝えられる、わかってもらえる授業にするためには教材研究もしなければいけないし、必ず毎日ガリ切りをした。ワークシートを必ず作った。そういう風なことをして臨んでいくことで子供達との距離が縮まる。子供と一緒に学んでいくということを心がけた。自主学习もしたし班ノートを書かせた。毎日なんでも良いので、見開きを使って書かせた。何を書いても良くて、それに目を通して帰りまでに返さないといけないので、休み時間に職員室に帰る時間は全然なかった。

片倉委員

桃鉄について。私自身はやったことはないが、これを読んでいて、タブレットで日本の地理が知れるのは面白いな、日本の魅力の面白さに気づけるのも良いし、楽しんでいるうちにいつの間にかそれが学びになるというのがいいなと思ったもの。さらに、物件価格や利益率を変更しながら資産を増やすという、探求型の学習が入っているのがと楽しそうだなと思って見ていた。

授業時間であまり時間が取れないようであれば、長期の休み、例えば春休みとか夏休みに宿題を出して、長期休み前に子供たちと共有して、こういうことをやるよというのを入れて、長期の休みでも1日時間を決めて一定時間で宿題として取り入れるのも面白いのではないかと考えて見ていた。

また、大小公開授業では、長谷川先生の1年生のクラスを見ていたが、授業を始める前にクラスみんなゲームをしていた。ゲームをしてコミュニケーションをすごく取っているなと思って、みんな仲が良いなと思って見ていた。それが終わってから授業を進めていたので、間違っただけの子がいたとしても否定をせず、みんな全員で肯定して話が進んでるなと思い、良いクラスだと思って見ていた。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和7年度行事予定について説明。

8 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和8年3月24日（火）午後2時から開催する。

1 1 閉会宣言 午後4時00分

令和8年3月24日

署名委員

署名委員